

■増加量の記載方法について

② 環境保全に関する目標との整合性に係る評価

a 長期平均濃度予測

焼却施設の稼働に伴う日平均予測濃度(二酸化いおう、二酸化窒素、浮遊粒子状物質)及び年平均予測濃度(ダイオキシン類)は、表4-1-88に示すとおりである。

バックグラウンド濃度からの増加量(年平均寄与濃度)はケース1の方が大きく、二酸化いおうで0.000116ppm、二酸化窒素で0.0007ppm、浮遊粒子状物質で0.000039mg/m³、ダイオキシン類で0.000387pg-TEQ/m³である。全ての項目で環境保全に関する目標値を下回ったことから、環境保全に関する目標との整合性は図られているものと評価する。

ただし、施設の詳細な設備・機器については現時点では未確定であり、存在・供用時に稼働する設備・機器の諸元等が予測条件と異なる場合が考えられる。そのため、焼却施設の稼働に際しては、事後調査を行う。焼却施設の稼働に伴う排出ガスが周辺環境に影響を及ぼしていることが確認された場合には、適切な対策を実施することとする。

表 4-1-88 環境保全に関する目標との整合性に係る評価結果(焼却施設の稼働：長期平均濃度)

予測地点	対象物質	ケース	年平均寄与濃度	バックグラウンド濃度	年平均予測濃度	日平均予測濃度	環境保全に関する目標
最大着地濃度地点	二酸化いおう(ppm)	ケース1	0.000116	0.001	0.0011	0.0032	日平均値 0.04以下
		ケース2	0.000105		0.0011	0.0032	
	二酸化窒素(ppm)	ケース1	0.0007	0.011	0.0117	0.0276	日平均値 0.04以下
		ケース2	0.0006		0.0116	0.0274	
	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	ケース1	0.000039	0.021	0.0210	0.0484	日平均値 0.10以下
		ケース2	0.000035		0.0210	0.0484	
	ダイオキシン類(pg-TEQ/m ³)	ケース1	0.000387	0.051	0.0514	—	年平均値 0.6以下
		ケース2	0.000351		0.0514	—	

備考) 日平均予測濃度：年平均予測濃度から回帰式を用いて換算した値。なお、ダイオキシン類については、環境基準が年平均値であるため換算しない。

ケース1：最も排ガス量が多い場合

ケース2：ケース1と同じ処理方式で最も排ガス量が少ない場合

注 二酸化窒素の年平均寄与濃度は、窒素酸化物からの換算値を示す。

b 短期濃度予測

焼却施設の稼働に伴う1時間値の予測濃度は表4-1-89に示すとおりであり、全ての項目で環境保全に関する目標値を下回ったことから、環境保全に関する目標との整合性は図られているものと評価する。

ただし、施設の詳細な設備・機器については現時点では未確定であり、存在・供用時に稼働する設備・機器の諸元等が予測条件と異なる場合が考えられる。そのため、焼却施設の稼働に際しては、事後調査を行う。焼却施設の稼働に伴う排出ガスが周辺環境に影響を及ぼしていることが確認された場合には、適切な対策を実施することとする。

表 4-1-89 環境保全に関する目標との整合性に係る評価(焼却施設の稼働：短期濃度予測)

条件	対象物質	ケース	1時間値の 寄与濃度	バックグラウンド 濃度	1時間値の 予測濃度	環境保全に 関する目標
不安 定時	二酸化いおう (ppm)	ケース1	0.0019	0.006	0.0079	1時間値
		ケース2	0.0017	0.006	0.0077	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	ケース1	0.0050	0.043	0.0480	1時間値
		ケース2	0.0046	0.043	0.0476	0.1以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	ケース1	0.0006	0.100	0.1006	1時間値
		ケース2	0.0006	0.100	0.1006	0.20以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	ケース1	0.0060	0.092	0.0980	0.6以下	
	ケース2	0.0056	0.092	0.0976		
塩化水素 (ppm)	ケース1	0.0031	0.004	0.0071	1時間値	
	ケース2	0.0028	0.004	0.0068	0.02以下	
逆転層 発生時	二酸化いおう (ppm)	ケース1	0.0037	0.006	0.0097	1時間値
		ケース2	0.0034	0.006	0.0094	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	ケース1	0.0086	0.043	0.0516	1時間値
		ケース2	0.0080	0.043	0.0510	0.1以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	ケース1	0.0012	0.100	0.1012	1時間値
		ケース2	0.0011	0.100	0.1011	0.20以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	ケース1	0.0124	0.092	0.1044	0.6以下	
	ケース2	0.0113	0.092	0.1033		
塩化水素 (ppm)	ケース1	0.0062	0.004	0.0102	1時間値	
	ケース2	0.0056	0.004	0.0096	0.02以下	
接地 逆転層 崩壊時	二酸化いおう (ppm)	ケース1	0.0029	0.006	0.0089	1時間値
		ケース2	0.0026	0.006	0.0086	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	ケース1	0.0074	0.043	0.0504	1時間値
		ケース2	0.0069	0.043	0.0499	0.1以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	ケース1	0.0009	0.100	0.1009	1時間値
		ケース2	0.0009	0.100	0.1009	0.20以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	ケース1	0.0095	0.092	0.1015	0.6以下	
	ケース2	0.0086	0.092	0.1006		
塩化水素 (ppm)	ケース1	0.0048	0.004	0.0088	1時間値	
	ケース2	0.0043	0.004	0.0083	0.02以下	
ダウン ドラフ ト時	二酸化いおう (ppm)	ケース1	0.0004	0.006	0.0064	1時間値
		ケース2	0.0004	0.006	0.0064	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	ケース1	0.0016	0.043	0.0446	1時間値
		ケース2	0.0014	0.043	0.0444	0.1以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	ケース1	0.0001	0.100	0.1001	1時間値
		ケース2	0.0001	0.100	0.1001	0.20以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	ケース1	0.0015	0.092	0.0935	0.6以下	
	ケース2	0.0013	0.092	0.0933		
塩化水素 (ppm)	ケース1	0.0007	0.004	0.0047	1時間値	
	ケース2	0.0007	0.004	0.0047	0.02以下	
ダウン ウォッ シュ時	二酸化いおう (ppm)	ケース1	0.0004	0.006	0.0064	1時間値
		ケース2	0.0004	0.006	0.0064	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	ケース1	0.0015	0.043	0.0445	1時間値
		ケース2	0.0013	0.043	0.0443	0.1以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	ケース1	0.0001	0.100	0.1001	1時間値
		ケース2	0.0001	0.100	0.1001	0.20以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	ケース1	0.0013	0.092	0.0933	0.6以下	
	ケース2	0.0012	0.092	0.0932		
塩化水素 (ppm)	ケース1	0.0007	0.004	0.0047	1時間値	
	ケース2	0.0006	0.004	0.0046	0.02以下	

備考) ケース1：最も排ガス量が多い場合 ケース2：ケース1と同じ処理方式で最も排ガス量が少ない場合

注：ダイオキシン類の短期濃度に対する環境基準がないため、便宜的に年間平均値の0.6を用いた。